

十字架

□前のハイライトからのつながり メシアの公生涯 3 年半 その最後の一週間

日付はユダヤ暦ニサンの月 (紀元 30 年 4 月 2 日~7 日)

10 日 (日)	11 日 (月)	12 日 (火)	13 日 (水)	14 日 (木)	15 日 (金)
					†

エルサレム入城

- ニサンの月 10 日、週の初めの日 (日曜日)、イエスは子ろばに乗って。
- 火曜日、**オリーブ山での終末預言** を弟子たちに語った後、死と復活を予告 (4 回目)
- 水曜日の夜の出来事は、二つ
 - オリーブ山からベタニヤに戻り、**シモンの家で夕食**。マルタが給仕し、ラザロも食卓に。マリアによる香油注ぎ、これがイエスの埋葬準備となる。
 - 香油注ぎを浪費だと反対したユダは、イエスから叱責を受ける。夕食の席を抜けてエルサレムの祭司長たちのもとへ。銀貨 30 枚でイエスを引き渡すことを約束した
- 水曜日の夜明けから日没まで、そして木曜日の夜についての記事は、ない。
- 14 日は**過越の食事を準備**する日。場所は、あらかじめイエスが手配していた。弟子たちが過越の食事の準備をした。
- 日没後は金曜日 15 日である。イエスと弟子たちは **過越の食事** の席についた。
 - 過越の食事では、伝統的なユダヤの手順に沿った。
 - 誰かが裏切るという予告を 3 回。ユダが席を抜けたあと、第三の杯 (贖いの杯) のときに、新しい契約の宣言。
- 過越の食事の後、その場所 (二階部屋) で、イエスが弟子たちに語った (ヨハネ 14 章)
- 二階部屋から出発し、エルサレムの町を出て、ゲッセマネの園に向かった。その道すがら、歩きながら「まことのぶどうの木とその枝」のたとえ話など (15・16 章)
- ゲッセマネの園に近づいた辺りで、イエスが大祭司としての祈りをした (17 章)
イエスは、歩みを止めて立ったまま、天に目を向けて、父なる神に祈った。
- 金曜日の夜 (10 時から 11 時頃と推定)、ゲッセマネの園で苦悶の祈り。祈りを終えたあと、イエスは逮捕された**
- 深夜から夜明け後にかけて・・・ユダヤ法による裁判
- 15 日早朝から午前 6 時頃まで・・・ローマ法による裁判
- 15 日午前から夕方まで・・・**十字架刑** そして墓への葬り

□アウトライン

1. 十字架への道
2. 十字架上での前半 3 時間
3. 十字架上での後半 3 時間
4. メシアの死に伴った出来事
5. メシアの葬り

1. 十字架への道

- (1) イエスは十字架を負わされて刑場へ向かった

ヨハ 19:17 イエスは自分で十字架を負って、「どくろの場所」と呼ばれるところ
に出て行かれた。そこは、ヘブル語ではゴルゴタと呼ばれている。

- (2) クレネ人シモンがイエスに代わって十字架を負わされた

マタ 27:32 兵士たちが出て行くと、シモンという名のクレネ人に出会った。彼
らはこの人に、イエスの十字架を無理やり背負わせた。

マコ 15:21 兵士たちは、通りかかったクレネ人シモンという人に、イエスの十
字架を無理やり背負わせた。彼はアレクサンドロとルフォスの父で、田舎から来
ていた。

ルカ 23:26 彼らはイエスを引いて行く途中、田舎から出て来たシモンというク
レネ人を捕まえ、この人に十字架を負わせてイエスの後から運ばせた。

- クレネ人:北アフリカのペンタポリス(5つのギリシア系の町)のひとつ、
クレネという町の住人。最盛期は人口 10 万、ユダヤ人共同体もあった。
シモンは、ギリシア人ではなく、ユダヤ人。
- ルフォス:ロマ 16:13 主にあって選ばれた人(責任ある立場の人)ル
フォスによろしく。また彼と私の母によろしく。

(3) 嘆き悲しむ女たちの方を振り向いて、「自分自身と子どもたちのために泣け」

ルカ 23 : 27~31 民衆や、イエスのことを嘆き悲しむ女たちが大きな一群をなして、イエスの後について行った。イエスは彼女たちの方を振り向いて言われた。

「エルサレムの娘たち、わたしのために泣いてはいけません。むしろ自分自身と、自分の子どもたちのために泣きなさい。なぜなら人々が、『不妊の女、子を産んだことのない胎、飲ませたことのない乳房は幸いだ』と言う日が来るのですから。そのとき、人々は山々に向かって『私たちの上に崩れ落ちよ』と言ひ、丘に向かって『私たちをおおえ』と言ひ始めます。生木にこのようなことが行われるなら、枯れ木には、いったい何が起こるでしょうか。」

- 生木にこのようなことが行われるなら・・・罪のないイエスが今このような苦しみを受けるとするなら
- 枯れ木には、いったい何が起こるでしょうか・・・聖霊を冒瀆する罪を犯したイスラエルの邪悪な世代がエルサレム陥落のとき（紀元 70 年）に受ける苦難は、どれほどひどいものになるだろうか

(4) 刑場に着いて、苦みを混ぜたぶどう酒を飲ませようとされたが、飲まなかった

マタ 27 : 33~34 ゴルゴタと呼ばれている場所、すなわち「どくろの場所」に来ると、彼らはイエスに、苦みを混ぜたぶどう酒を飲ませようとした。イエスはそれをなめただけで、飲もうとはされなかった。

- 苦味を混ぜたぶどう酒：【ぶどう酒+没薬や雄牛の胆汁など】、痛みを和らげる麻酔薬・鎮痛剤のようなもの
- 飲もうとはされなかった・・・飲むと意識もうろうとなる。イエスはこれを飲まなかった。意識を鮮明に保ち、ことばを発するため。

(5) イエスを中央にして、左右に二人の犯罪人が十字架にかけられた

ルカ 23 : 33 「どくろ」と呼ばれている場所に来ると、そこで彼らはイエスを十字架につけた。また犯罪人たちを、一人を右に、もう一人は左に十字架につけた。

- 十字架・・・当時の処刑では、一本柱・X字型・T字型・十字型の 4 種類。罪状書きがイエスの頭上に釘付けにされたので、一本柱か十字型。一本柱

は主にイタリア国内での使用。よって、十字型であったと推定。十字型なら、使用する釘は 3 本。両手首にそれぞれ 1 本、両足を重ねて 1 本。(←詩 22:16 **私の手足にかみついた** (ピアスした、小さな穴をあけて突き通すこと) = 十字架に釘付けされることの預言

- つけた・・・つける順番は 3 つ。まず地面に横にして置いてある縦柱に横木を装着する。次に受刑者の体を十字架の上に仰向けに寝かせ、手足を釘付けする。そして三番目に、十字架を起し、地面の穴に十字架の縦柱を落とし込む。(←詩 22:14 **骨はみな外れました** = 柱を地面の穴に落とし込んだときの衝撃で関節が脱臼することの預言)

(6) ローマ総督ピラトは、罪状書きを十字架の上に掲げさせた

ヨハ 19:19~22 ピラトは罪状書きも書いて、十字架の上に掲げた。それには「ユダヤ人の王、ナザレ人イエス」と書かれていた。イエスが十字架につけられた場所は都に近かったので、多くのユダヤ人がこの罪状書きを読んだ。それはヘブル語、ラテン語、ギリシア語で書かれていた。そこで、ユダヤ人の祭司長たちはピラトに、「ユダヤ人の王と書かないで、この者はユダヤ人の王と自称したと書いてください」と言った。ピラトは答えた。「私が書いたものは、書いたままにしておけ。」

2. 十字架上での前半 3 時間 (午前 9 時～12 時)

- (1) **第一のことば**は、ローマ軍の兵士たちのための**とりなしの祈り**であった

ルカ 23 : 34 そのとき、イエスはこう言われた。「父よ、彼らをお赦してください。彼らは、自分が何をしているのかが分かっていないのです。」彼らはイエスの衣を分けるために、くじを引いた。

- 彼ら・・・イエスの処刑を実行しているローマ軍の兵士たち

- (2) 兵士たちがイエスの着物を取った

ヨハ 19 : 23～24 さて、兵士たちはイエスを十字架につけると、その衣を取って四つに分け、各自に一つずつ渡るようにした。また下着も取ったが、それは上から全部一つに織った、縫い目のないものであった。そのため、彼らは互いに言った。

「これは裂かないで、だれの物になるか、くじを引こう。」これは、「彼らは私の衣服を分け合い、私の衣をくじ引きにします」とある聖書が成就するためであった。それで、兵士たちはそのように行った。

- 下着：現代の肌着ではない。ギリシア語で「キトン」、体全体を包み込む、首から足先まである着物。
- 聖書が成就するため：旧約聖書の預言が成就したということ。縫い目なしの一枚の布からできているので、四つに切り分けると価値がなくなる。そこで、くじ引きで誰が取るか決めた。

詩 22 : 18 彼らは私の衣服を分け合い、私の衣をくじ引きにします。

- (3) いろいろな人たちがイエスをあざけた

マコ 15 : 29～30 通りすがりの人たちは、頭を振りながらイエスをののしって言った。「おい、神殿を壊して三日で建てる人よ。十字架から降りて来て、自分を救ってみろ。」

- 通りすがりの人たち・・・ユダヤ人の群衆 ← 詩 22 : 7 私を見る者はみな 私を嘲ります。口をとがらせ 頭を振ります。

マコ 15 : 31～32a 同じように、祭司長たちも律法学者たちと一緒に、代

わる代わるイエスを嘲って言った。「他人は救ったが、自分は救えない。キリスト、イスラエルの王に、今、十字架から降りてもらおう。それを見たら信じよう。」

マコ 15 : 32b また、一緒に十字架につけられていた者たちもイエスをののしった。

- 一緒に十字架につけられていた者たち・・・イエスの左と右にいた二人ともが、イエスをののしった。しかし、この後、一人は悔い改めてイエスを信じる。

ルカ 23 : 36~37 兵士たちも近くに来て、酸いぶどう酒を差し出し、「おまえがユダヤ人の王なら、自分を救ってみろ」と言ってイエスを嘲った。

- (4) 一緒に十字架につけられていた犯罪人の一人が、悔い改めてイエスを信じた。そして、イエスの**第二のことば** その人の**救いの宣言**

ルカ 23 : 39~41 十字架にかけられていた犯罪人の一人は、イエスをののしり、「おまえはキリストではないか。自分とおれたちを救え」と言った。すると、もう一人が彼をたしなめて言った。「おまえは神を恐れないのか。おまえも同じ刑罰を受けているではないか。おれたちは、自分のしたことの報いを受けているのだから当たり前だ。だがこの方は、悪いことを何もしていない。」

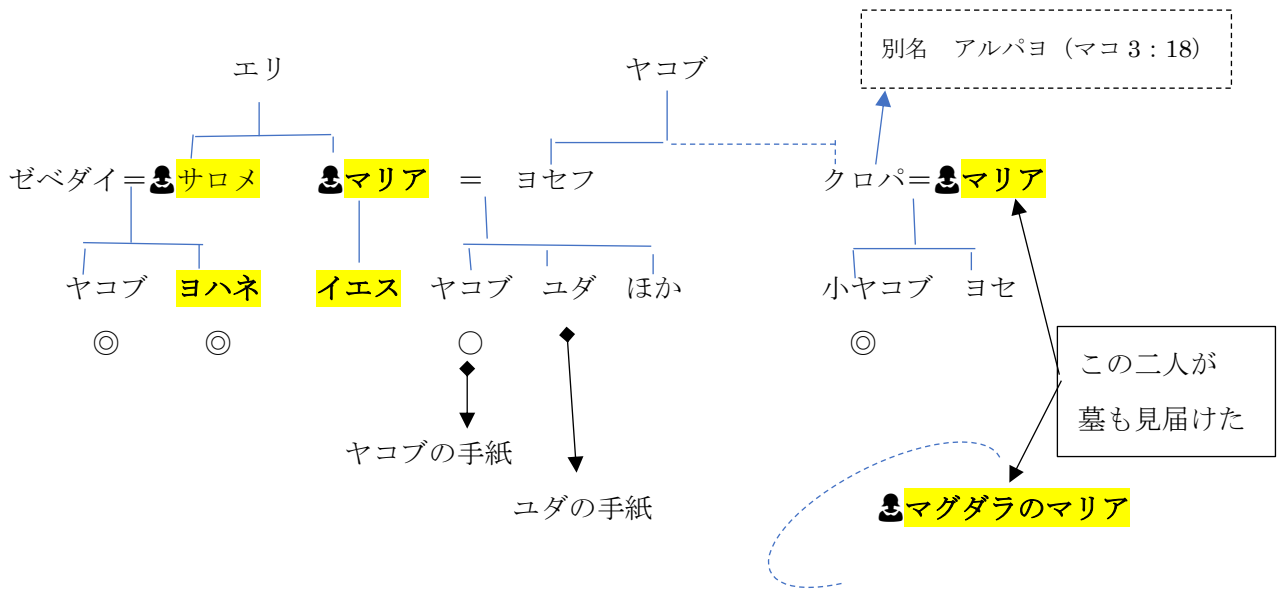
ルカ 23 : 42~43 そして言った。「イエス様。あなたが御国に入られるときには、私を思い出してください。」イエスは、彼に言われた。「まことに、あなたに言います。あなたは今日、わたしとともにパラダイスにいます。」

- あなたが御国に入られる・・・御国とは、メシアの王国。「イエスはメシアであり、イスラエルの王である」、そして「イエスは復活して永遠の王となる」と信じる、という信仰告白
- パラダイス・・・信者の靈魂が死後に行く先。この時点では、よみの中にあった。イエスの昇天のときに、パラダイスはよみから天に移され、今は信者が死ぬと、その靈魂は天のパラダイスに行く。
- 私を思い出してください・・・メシアの王国が建てられるときに、私も復活して王国に入ることができますように、という願い

(5) **第三のことば** 母マリアを使徒ヨハネに託した

ヨハ 19 : 25~27 イエスの十字架のそばには、イエスの母とその姉妹、そしてクロパの妻マリアとマグダラのマリアが立っていた。イエスは、母とそばに立っている愛する弟子を見て、母に「女の方、ご覧なさい。あなたの息子です」と言われた。それから、その弟子に「ご覧なさい。あなたの母です」と言われた。その時から、この弟子は彼女を自分のところに引き取った。

- 十字架のそばに 4 人の婦人たち
 - イエスの母 : マリア
 - その姉妹 : マタ 27 : 56 ゼベダイの子たち (ヤコブとヨハネ) の母
マコ 15 : 40 サロメ
 - クロパの妻マリア : マタ 27 : 56 ヤコブとヨセフの母マリア、マコ 15 : 40 小ヤコブとヨセの母 ⇒ 伝承ではクロパは、母マリアにとって、夫ヨセフの兄弟。
 - マグダラのマリア
- 愛する弟子 : 使徒ヨハネ、この福音書の記者なので自分の名を記さない
- イエスは、母マリアの生活をヨハネに託した。マリアにとって、イエスは息子イエスから主イエス・キリストへ。



- ◎ : 第一グループの使徒
- ◇ : 第二グループの使徒 (ヤコブ、バルナバ、パウロ)

神との断絶＝霊的死の経験 (ゲッセマネの園での苦悶の祈り「杯」)

霊的復活

3. 十字架上での後半の 3 時間 (昼の 12 時から午後 3 時)

マタ 27:45 さて、十二時から午後三時まで闇が全地をおおった。

マコ 15:33 さて、十二時になったとき、闇が全地をおおい、午後三時まで続いた。

ルカ 23:44~45a さて、時はすでに十二時ごろであった。全地が暗くなり、午後三時まで続いた。太陽は光を失っていた。

- 闇・・・徐々に暗くなるような、通常の日食ではない。突如、太陽が光を失い、全地が闇におおわれ、その状態が 3 時間続いた。暗黒は、神の怒りの現れ (出 10:22) → メシアの上に、神の怒りが注がれた
- 同時に、光である方メシアを拒否したイスラエルに対するしるし。
ルカ 22:53 今はあなたがたの時、暗やみの力です
イスラエルの背後には、暗闇の力、すなわりサタンがいる。

(1) 後半 3 時間の終わりに、**第四のことば** 大声で叫んだ

マタ 27:46 三時ごろ、イエスは大声で叫ばれた。「エリ、エリ、レマ、サバクタニ。」これは、「わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになったのですか」という意味である。

- わが神・・・「父よ」ではない。父なる神との断絶状態にあることを示す
- 周囲の人たちは、預言者エリヤを呼んでいると思った。群衆のひとりが、酸いぶどう酒を海綿に含ませ、葦の棒に付けてイエスに飲ませようとしたが、ほかの者が止めて「待て。エリヤが救いに来るか見てみよう。」
- 詩篇 22:1~2 わが神 わが神 どうして私をお見捨てになったのですか。私を救わず 遠く離れておられるのですか。私のうめきのことばにもかかわらず。わが神 昼に私はあなたを呼びます。しかし あなたは答えてくださいません。夜にも私は黙っていられません。

(2) **第五のことば** 「わたしは渇く」

ヨハ 19:28~30a それから、イエスはすべてのことが完了したのを知ると、聖書が成就するために、「わたしは渇く」と言われた。酸いぶどう酒がいっぱい入った器がそこに置いてあったので、兵士たちは、酸いぶどう酒を含んだ海綿をヒソブの枝に付けて、イエスの口もとに差し出した。イエスは酸いぶどう酒を受けると、

- 聖書が成就するために・・・旧約聖書のメシア預言のとおりとなったということ。詩篇 22：15 私の力は 土器のかけらのように乾ききり 舌は上あごに貼り付いています。
- 酸いぶどう酒・・・鎮痛剤でなく、飲用のワイン・ビネガー。残り二つのことば（第六と第七のことば）を明瞭に発音するために受けた。
- ヒソプの枝・・・しそ科の雑草。イスラエルの山野の至るところに自生し、また栽培される植物。夏から秋にかけて小さな淡紫色のくちびる状の花をつける。花は香らないが、葉をちぎるならば、芳しい香りを放つ。傷つけられると、香る雑草である。出エジプトでは、過越の羊の血を家の出入り口に塗るために用いられた。
出 12：21～22a モーセはイスラエルの長老たちをみな呼び、彼らに言った。「さあ、羊をあなたがたの家族ごとに用意しなさい。そして過越のいけにえを屠りなさい。ヒソプの束を一つ取って、鉢の中の血に浸し、その鉢の中の血を鴨居と二本の門柱に塗り付けなさい。

(3) **第六のことば** 「完了した」

ヨハ 19：30a イエスは酸いぶどう酒を受けると、「完了した」と言われた。

- 完了した・・・ギリシア語「テテレスタイ」負債を完済した
イエスは、人の罪の負債をすべて支払ってくださった。

(4) **第七のことば** （大声で叫んだ）霊的復活の証しとなる祈り 死の直前のことば
ルカ 23：46a イエスは大声で叫ばれた。「父よ、わたしの霊をあなたの御手にゆだねます。」

- 父よ・・・「わが神」ではなく、「父よ」という呼びかけ。父なる神との関係が回復していた。イエスは十字架上で霊的に死んで、霊的に復活した。

(5) メシアの死

ヨハ 19：30b そして、頭を垂れて霊をお渡しになった。

- 霊を渡すとは、肉体から霊を解き放つという意味。イエスの死に方は、通常の人死に方ではない。通常は、死んでから頭が垂れる。
イエスはご自分で頭を垂れて、それからご自分で霊を解き放って死んだ。
イエスは、死の時をご自分で選んだのである。

4. メシアの死に伴った出来事

マタ 27 : 51~54 すると見よ、神殿の幕が上から下まで真っ二つに裂けた。地が揺れ動き、岩が裂け、墓が開いて、眠りについていた多くの聖なる人々のからだが生き返った。彼らはイエスの復活の後で、墓から出て来て聖なる都に入り、多くの人に現れた。百人隊長と一緒にイエスを見張っていた者たちは、地震やいろいろな出来事を見て、非常に恐れて言った。「この方は本当に神の子であった。」

(1) 神殿の幕が裂けた

- ① 神殿の聖所と至聖所を仕切る幕：天井から床まで約 18m、厚さ約 10 cm
- ② 上から下に向かって裂けた。人間が下から上に裂いたのではない。
- ③ 祭司たちへの影響 → 使徒 6 : 7 こうして、神のことばがますます広まっ
ていき、エルサレムで弟子の数が非常に増えていった。また、祭司たちが大勢、
次々と信仰に入った。

(2) 地震が起き、聖徒たちがよみがえった

- ① 2つの解釈（ギリシヤ語原文では、いずれも可能な解釈）
A 説（蘇生説）：地震のとき墓が開き、同時に多くの聖徒たちのからだが生き返った。彼らはイエスの復活の後に、墓から出てきて、エルサレムに入った。
B 説（復活説）：地震のとき墓が開いた。イエスの復活の後、多くの聖徒たちが復活して、墓から出てエルサレムに入った。
- ② イエスを復活の初穂であるとする点では、2つの解釈ともに同じ。
- ③ 復活の順序を、【初穂であるイエス→教会の信者（携挙）→二人の証人→
I コリ 15 : 23 黙 11 : 11

旧約時代の聖徒たち→大患難期の聖徒たち】と 5 段階でとらえると、A 説。
ダニ 12 : 2、11~13 黙 20 : 4

- (3) 百人隊長・・・伝承では、名はロンギナス。後に信者となり殉教の死を遂げた。
ルカ 23 : 47 百人隊長はこの出来事を見て、神をほめたたえ、「本当にこの人は正しい人であった」と言った。

5. メシアの葬り

(1) 十字架刑における死体の措置

- ① ローマ人：そのまま放置して、野獣や獣に食わせる。まっとうな埋葬をしないことは刑の一部。
- ② ユダヤ人：木につけられた者は汚れている (申 21 : 22~23)。そのまま放置すると、町が汚れる。特に安息日に町が汚れることは容認できない。しかも、この日の夜は、祭司たちのための過越の食事である (ヨハ 18 : 28)。十字架に罪人がつけられたままでは、それができない。
- ③ 刑の開始からまだ 6 時間。通常はさらに数時間から数日間、生き延びる。
- ④ 死期を早めたいときは、脚のすねの骨を折って、窒息死させる。

(2) イエスはすでに死んでいたのに、兵士が確認のため、わき腹を槍で刺し通した

ヨハ 19 : 31b~37 ユダヤ人たちは、安息日に死体が十字架の上に残らないようにするため、その脚を折って取り降ろしてほしいとピラトに願い出た。そこで、兵士たちが来て、イエスと一緒に十字架につけられた一人目の者と、もう一人の者の脚を折った。

イエスのところに来ると、すでに死んでいるのが分かったので、その脚を折らなかつた。しかし兵士の一人は、イエスの脇腹を槍で突き刺した。すると、すぐに血と水が出て来た。これを目撃した者が証している。それは、あなたがたも信じるようになるためである。その証しは真実であり、その人は自分が真実を話していることを知っている。

これらのことが起こったのは、「彼の骨は、一つも折られることはない」とある聖書が成就するためであり、また聖書の別のところで、「彼らは自分たちが突き刺した方を仰ぎ見る」と言われているからである。

- 彼の骨は、一つも折られることはない・・・詩篇 34 : 20 主は彼の骨をことごとく守り その一つさえ 折られることはない。
出 12 : 46 (過越の羊について) その骨を折ってはならない。
- 彼らは自分たちが突き刺した方を仰ぎ見る・・・ゼカ 12 : 10 自分たちが突き刺した者、わたしを仰ぎ見て ⇒ この預言の「彼ら」「自分たちが」は、イスラエル民族を指す。

(3) イエスの遺体が墓に葬られた

ヨハ 19 : 38~42 その後で、イエスの弟子であったが、ユダヤ人を恐れてそれを隠していたアリマタヤのヨセフが、イエスのからだを取り降ろすことをピラトに願い出た。ピラトは許可を与えた。そこで彼はやって来て、イエスのからだを取り降ろした。以前、夜イエスのところに来たニコデモも、没薬と沈香を混ぜ合わせたものを百リトラほど持ってやって来た。彼らはイエスのからだを取り、ユダヤ人の埋葬の習慣にしたがって、香料と一緒に亜麻布で巻いた。イエスが十字架につけられた場所には園があり、そこには、まだだれも葬られたことのない新しい墓があった。その日はユダヤ人の備え日であり、その墓が近かったので、彼らはそこにイエスを納めた。

① アリマタヤのヨセフが遺体の引き取りを総督ピラトに願い出た

マタ 27 : 57 「金持ち」 「イエスの弟子となっていた」

マコ 15 : 43 「有力な議員」 「自らも神の国を待ち望んでいた」

- ピラトは許可を与えた (恩赦)。これがなければ、ユダヤ人たちは遺体を城壁から投げ捨てていた。

② ニコデモは、没薬とアロエを混ぜ合わせたもの約 30 キロを持参

③ 新しい墓が、刑場のすぐそばにあった。一般の墓地ではなく、園の墓。だれもまだ葬られたことのない新しい墓。マタ 27 : 60 岩を掘って造った自分 (ヨセフ) の新しい墓

④ 旧約聖書の預言のとおり、イエスの墓は、金持ちの墓に、それも、事前の取り決めなしで、死んでからそこに葬ることが決まった。

イザヤ 53 : 9 彼の墓は、悪者どもとともに、富む者とともに、その死の時に設けられた

⑤ その日はユダヤ人の備え日であり・・・安息日に入る日没までに時間がないので、葬りは大急ぎで行われた。入り口には大きな石をころがしておいて帰った (マタ 27 : 59~60)

⑥ マタ 27 : 61 マグダラのマリアともう一人のマリアはそこにおいて、墓の方を向いて座っていた。

- 彼女たちは、ヨセフの後について行き、墓と、イエスのからだを納められる様子を見届けた。香料と香油の追加が必要と認識 (ルカ 23 : 55~56)。翌日は安息日だったので、翌々日、週の初めの日の早朝に墓に行った。
⇒ 復活の主に出会う